数多くの職務を歴任。

こだまげんたろう
児玉源太郎
政治家・陸軍軍人。
写真:周南市美術博物館所蔵

徳山藩（山口県）に生まれる。献功隊の半隊司令士として戊辰戦争に参加。のちに陸軍に入り、佐賀の乱・神風連の乱・西南戦争に従軍して頭角を現した。

1887年（明治20年）陸軍大学校長として陸軍軍制の近代化を進め、1891年ヨーロッパ視察、1892～1898年陸軍次官に任じられ、陸軍省軍務局長となる。日清戦争では大本営参謀としても活躍した。1898年台湾総督就任。1900年第四次伊藤内閣の陸軍大臣、次の第一次桂内閣にも留任し、一時は内務大臣・文部大臣も兼任した。

私設図書館 児玉文庫を創設。

1903年文相・内相を辞任して参謀本部次長に就任。参謀長大山巌の元で手腕を振るった。この間、郷里徳山に私設図書館「児玉文庫」を創設するなど若者の教育にも力を注いだ。

児玉文庫開設百周年記念碑

日露戦争の英雄へ。

1904年に陸軍大将に任じられ日露戦争へ出征。最大の戦局と言われ、熾烈を極めた旅順攻略を指揮し、ロシアの太平洋艦隊を壊滅に追い込む功績を上げた。

戦後は参謀総長、南満州鉄道株式会社設立委員長として激務の日々を送っていたが、1906年（明治39年）脳溢血により急逝。（享年54才）

素顔の児玉源太郎

1876年（明治9年）神風連の乱鎮圧の最中、東京の陸軍省から熊本鎮台に「コダマショウサハ、ブジカ」という電報が届いたという話は、当時24歳に過ぎない一少佐であった源太郎が陸軍内でいかに信頼されていたか、を示すエピソードである。

ドイツから招かれた陸軍大学校の教官メッケルは、源太郎の人格と才能を讃え、日本を離れる時「私があなたの師であるという光栄をありがたく受け取りたい」と語った。メッケルは日露開戦後も「コダマがいる限り日本が勝利する」と信じて疑わなかったという。

乃木希典とは同郷であり、親友であった。旅順攻略という任務をなかなか果たせずにいる乃木の苦しみを案じ、自らが乃木に代わって指揮をとることを大山巌陸軍参謀総長に申し出て、旅順へ乗り込んで行ったのである。

徳山をもっと満喫!!

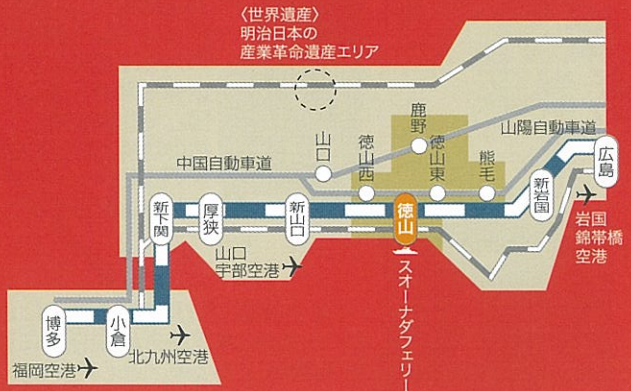
周南市観光ボランティアガイド

観光コース 徳山城下町を訪ねて

市街地の児玉公園から緑と文化のプロムナード（桜並木）、徳山動物園、文化会館、美術博物館、岐山通り周辺の史跡と文化を堪能していただきます。

みどころ　児玉源太郎生誕の地
祐綏神社・毛利家墓所など

周南市観光ボランティアガイドは、周南市を訪れた方々の楽しい旅のお手伝いをします。料金は無料ですが、交通費等が必要な場合は実費となります。
詳しくは下記までお気軽にお問い合せください。



新幹線のぞみ利用
- 博多から徳山まで約44分
- 広島から徳山まで約22分
- 新大阪から徳山まで約1時間43分
- 東京から徳山まで約4時間23分

お問い合わせ
周南市観光交流課
TEL:0834-22-8372 FAX:0834-22-8357
周南市観光ボランティアガイドの会事務局
（(一財)周南観光コンベンション協会内）
TEL:0834-33-8424 FAX:0834-33-8425

初版 H22.3　第3版 H28.1

徳山の歴史探訪MAP

児玉源太郎 & 徳山藩 GUIDE

江戸時代から明治時代へ 大きな歴史のうねりを感じる旅

みつけて周南

徳山の歴史探訪MAP
児玉源太郎 & 徳山藩 GUIDE

児玉家屋敷（後に児玉文庫）跡であり、源太郎誕生の際、使われた井戸が今も残っています。
現在は生誕の地として整備されています。

児玉源太郎生誕の地

徳山藩館邸跡

祐綏神社

文化8年（1811年）に徳山藩初代藩主・毛利就隆を祭神として建立されました。

タイワンゴヨウ

児玉神社創建時に台湾から贈られた珍しいマツの木。源太郎を末永く称えるようにそびえています。

児玉神社

陸軍大将・児玉源太郎を祭神とし、大正12年（1923年）に旧邸跡に建立されたものです。

児玉公園

児玉神社に隣接する公園。市街地の中の公園で遊具も整備されています。

徳山七士碑

児玉源太郎像

台湾総督として台湾の近代化に尽力した源太郎。台湾の人々は彼の人格を尊び、銅像を製作しました（台湾国立博物館所蔵）。
彼の功績と遺徳を後世に末永く伝えていくため、その銅像の複製を設置しています。

藩校「興譲館」跡

7代藩主就馴（なりよし）の時代に創設された藩校「鳴鳳館」は、現在地に移転後「興譲館」と改められました。

大成寺 毛利家墓所

初代徳山藩主毛利就隆と歴代の藩主及びその妻子の墓所です。

徳山動物園
周南市文化会館
徳山高校
周南市美術博物館
岐山通
コンビニ
中央図書館
裁判所
検察庁
山口県周南総合庁舎
周南市役所
交番
徳山小学校
徳山郵便局
JR山陽本線
JR山陽新幹線
商栄通
周南病院
PH通り
観光案内所
徳山駅
みなみ銀座
銀南街
平和通
昭和通
映画館
周南市役所仮庁舎
青空公園
大成寺
スオーナダフェリー乗り場
大津島巡航乗り場
アイコンの説明 H…ホテル
0 50m 100m

徳山藩は、元和三年（1617年）に毛利輝元の次男就隆が都濃・熊毛郡内の三万石余りを分知され、はじまりました。就隆は初め下松に居を構えましたが、慶安三年（1650年）に居館を野上に移し、野上を徳山と改称しました。

第三代藩主・元次の代に、松の伐採をめぐって宗家と対立し、享保元年（1716年）幕府より本藩への非礼として改易されました（万役山事件）が、その後、奈古屋里人らの奔走で、享保四年（1719年）に元次の子・元堯が三万石で再興しました。
歴代藩主の墓は現在、大成寺のそばにあります。

①就隆―②元賢
③元次―④元堯
⑤広豊―⑥広寛
⑦就馴―⑧広鎮―⑨元蕃

毛利家系図

徳山藩の立藩から改易、そして再興へ「万役山事件」（まんにゃくやまじけん）

万役山事件は、正徳5年（1715年）、周防国の久米村万役山の松の木一本を巡る争いから領界の争論を生じ、徳山藩改易にまで発展した事件です。
万役山は現在の周南市にある山で宗家の萩藩領の西久米村と徳山藩との境界に位置しています。
正徳5年（1715年）6月6日、西久米村の農民・喜兵衛とその息子らが田の草をとっての帰りがけに、かつて植えておいた小松1本を切り取り、田の畦修理のために持ち帰ろうとしたのを、徳山藩の山回り足軽である伊沢里右衛門と久助が見つけて咎めたことがきっかけで争いとなり、里右衛門は喜兵衛の首をはねてしまいました。
この事件について萩藩、徳山藩双方の言い分が異なり、幕府の裁定を求める事態となったのです。その結果、徳山藩の改易、藩主毛利元次の新庄藩お預け、嫡子・百次郎、次男・三次郎（後の毛利広豊）らは萩藩にお預けと決定しました。
徳山の家中ではこの事態に驚き、藩の再興を目指すこととなりました。藩主元次から追放されていた奈古屋里人を中心として活動し、享保4年（1719年）1月、里人は「周防徳山領百姓中」と署名した嘆願書を老中らへ宛てて届け出ました。
萩藩主・毛利吉元から内願した形式をとり、5月28日に元次のお預けを免じ、元次の隠退と嫡子百次郎の家督相続が許可されました。
ここに徳山藩は再興されたのでした。